

オリエンタルスター

登録番号：(出願公表番号第 17327 号)

登録年月日：(出願公表平成 17 年 6 月 23 日)

登録者：(独)農業・食品産業技術総合研究機構

育成者：山田昌彦 佐藤明彦 山根弘康
平川信之 岩波 宏 三谷宣仁
吉永勝一 小澤俊治 白石美樹
夫 吉岡美加乃 中島育子 佐藤義彦 間瀬誠子 中野正明

中畝良二

来歴：「安芸津 21 号」〔「スチューベン」×「マスカット・オブ・アレキサンドリア」〕と「ルビー・オクヤマ」の交雑実生

育成地：広島県東広島市安芸津町 ((独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所ブドウ・カキ研究拠点)

特性

■栽培特性

樹勢は強く、「ネオマスカット」と同様に新梢は旺盛に伸びる。発芽期、開花期は「ネオマスカット」とほぼ同時期である。花振るい性が少ないため、樹勢が強い樹や短梢剪定栽培においても種有り栽培が可能である。花穂が比較的小さく、種有り栽培では一房当たりの花穂整形労力は少ない。摘粒労力は種有り栽培の「巨峰」と同程度である。満開時および満開後 10～15 日後にジベレリンを花房(果房)に処理すると種無し栽培が可能である。

■果実特性

「ネオマスカット」とほぼ同時期に成熟する紫赤色の 2 倍体品種である。果粒形は短楕円で、肉質は崩壊性で硬く、「マスカット・オブ・アレキサンドリア」に近い。糖度は高く 19%程度になり、酸含量が 0.4g/100ml と少ないため食味は優れる。はく皮性は「巨峰」よりやや劣るが、裂果性は「ネオマスカット」より小さく、縮果症の発生は見られない。脱粒性は「巨峰」より少なく、日持ち性は「ネオマスカット」と同程度である。種有り栽培の果粒重は 10g 程度であるが、種無し栽培の果粒重は長梢剪定栽培で 11.5g 前後に増加する。短梢剪定栽培など、新梢勢力が旺盛なほうが果粒重は増加するが、支梗が伸びて房型が横張する傾向が見られ、種無し栽培ではこの傾向が更に助長される。なお、若木のうちは果粒重が抑えられる傾向があるが、樹勢が落ち着いてくると果粒重も増加し安定する。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒とう病、べと病には「巨峰」より弱く、西南暖地など降水量の多い地域では、雨除け栽培が望ましい。灰色かび病、晩腐病に対する抵抗性は「巨峰」と同程度と思われる。根頭がんしゅ病に対する抵抗性はない。

育成地では収量目標を種有り栽培で 1.8t/10a、種無し栽培で 1.7t/10a 程度としているが、最適収量は栽培条件によって増減すると考えられる。ただし、花穂の着生は比較的良く「ネオマスカット」と同程度なので、着房過多には十分な注意が必要である。

種有り栽培での花穂整形は開花始めから行え、花穂の先端 7cm を用いる。摘粒は 9cm 前後の穂軸に 40～45 粒程度とすると 400～450g の果房が得られる。

種無し栽培での花穂整形は開花始めから行え、花穂の先端 4cm を用いる。満開時(十分咲き)および満開 10～15 日後にジベレリン 25ppm を花房(果房)に処理する。ジベレリンの感受性は高いが、処理時期が満開時なので、事前にストレプトマイシン 200ppm を花穂に処理すれば無核化率が安定する。摘粒は 8～9cm の穂軸に 40～45 粒程度とすれば 450～500g の果房が得られる。

■地域適応性

耐寒性は「巨峰」と同程度であるが、収穫時期が「巨峰」より遅いため、栽培ができる地域は東北地方南部以南と思われる。しかし、凍害の発生が多く、根頭がんしゅ病の発生が多い地域への導入には十分な検討が必要である。(上野俊人)